

54.

第二十特別根據地隊戰時日誌

第二十特別根據地隊司令部

軍極秘

機密第二十一特根第六號ノ二。

自昭和十八年九月一日
至昭和十八年九月三十日

十月一日

18.11.15
接受

1796

目次

一	經	過
二	人	員ノ現狀
三	令	達報告
四	參	考
五	作	戰經過概要
六	醫	務衛生
七	會	計經理
八	令	達報告別紙

(目次終)

17

一

延

過

1798

一、敵情

敵機ハ「スング」諸島方面、偵察ヲ密ニシ「スラバヤ」ニハ飛来セズ

敵潜ハ概ネ「スング」海以東ニ作戦シアリ

九月下旬昭南ニ於テA船數隻爆發シ敵謀略班、暗躍漸次激化、傾向ニアリ

二、我が軍、状況

一部當部隊防備配備ヲ変更シ敵機ニ對スル邀撃配備ヲ強化スルト共ニ少キ護衛艦艇ヲ全幅活用シ總テ、艦船ヲ直接護衛ニ努メ作戰目的ヲ達成セリ

三、作戦指導

1. 上旬敵敷設、磁氣機雷掃海ニ全力ヲ盡シ二個爆破處介セリ（磁氣機雷位置別圖、通）



口「チモール」アンボン」方面輸送ノ護衛ヲ實施セリ

ハ敵潛當方面ノ配備ニ就ク徴ヲ認メ警戒ヲ嚴ニセリ

ニ敵機「スラバヤ」飛來時必ズ「マヅラ」島方面ヨリ侵入ス

ルヲ認メ同島ニ陸軍ヨリ借用シ機銃ヲ急速裝備スル

ト共ニ移動探照灯ヲ派遣セリ

ホ水路警戒見張ヲ強化セリ

ヘ運綴補給基地設置ノ現地調査ヲ奇襲部隊（魚雷艇

隊）ノ編成演練對空射撃陸戰教練（機動上陸部

隊ノ急編成出動）防空及防諜訓練ヲ實施セリ

58.

74

張

三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日
		戒			痛			面	方		カ		シ		ス															一〇場特
		戒			痛			面	方		カ		シ		ス															二〇場特
								ヤ				バ			カ															三〇場特
			ヤ				バ		カ		カ				煙	怪	薬		入											四〇場特
(The remaining rows of the table are crossed out with a diagonal line.)																														

功績調査部長 殿

軍極秘

機密第二十一特根第六號ノ二

自昭和十八年十月一日
至昭和十八年十月三十一日

五月一日提出



1803

第二十特別根據地隊戰時日誌

第二十特別根據地隊司令部

目次

一	經	過
二	人	員
三	令	達
四	參	考
五	作	戰
六	醫	務
七	會	計
八	令	達

報 告 別 紙

經 過 現 狀 報 告 考 要 概 生 理

(目次終)

60.

一
經
過

1805

一敵情

敵機九日二〇一五「マカサ」ルニ十三機(推定)二十三日一六二五「ホマラ」ニ十三機
來襲シ「スバヤ」ニ飛來セズ

敵潜水艦「ワシボック」海峡ヲ通過シアリ 爪哇海ニ侵入セザルモ東印正面
出現數九月ニ比シ倍加シアリ

印度洋方面戰艦及空母ヲ基幹トスル敵來寇ノ氣配アリ

二我が軍ノ狀況

大島島敵襲ニ際シ閣聯スル敵ノ策動ニ對シ警戒スルト共ニ西方ノ敵

ニ對シC、D作戰警戒ヲ實施シ傍ニ訓練ヲ勵行セリ

「クリスマス」分遣隊ハ占領以來ノ隊員及幹部ノ大部ヲ交代セシメ新銳

ノ意氣込ヲ以テ邀撃手配備ノ完璧ヲ期セリ

三作戰指導

一敵潜水艦四日「ワシボック」海峡 五日「スバヤ」島「タリ」ワシ附近ニ發見掃

海特務艇航空機ヲ以テ捕捉攷撃手ニ努ムルト共ニ六日一時將旗ヲ

61.

1806

第十一號掃海艇ニ移揚掃蕩ニ任ジタリ

十六日再「ロンボック」海峡ニ敵潛ヲ發見航空機及掃海特務艇ヲ以テ追跡索敵セルモ我ガ機雷堰附近ニ逸セリ

口九日敵機「マカサ」ニ來龍以來敵ハ相當兵力ヲ整備シ集團使用スルモノト判断シ警戒シアリシモ二十三日「マツラ」島陸軍監視哨ニ於テ爆音ヲ聞キシハ誤ト判断ス他敵機ヲ認メズ

ハ六日大島島敵龍以來警戒ヲ嚴ニシアリシガ八日C.D.作戰警戒ノ今アリ機動上陸部隊ヲ編成訓練スルト共ニ第三警戒備部隊ニ派遣中ナリシ艦攻隊ノ一部ヲ集結シ移動準備ヲ完成待機中
十一日第三十八航戰索敵機ハ敵大部隊見ユ報ニ接シ勇躍邀撃ノ配備ヲ執ラムトセシニ右ハ誤報ナルコト判明十四日命ニ依リ敵情ヲ監視シツツ訓練ヲ激化スルトナレリ

ニ三日「スラバヤ」海峡北口ニ於テ氷川丸十三日南口ニ於テ第一〇一掃海特務艇磁氣機雷ノ爆發ニ會ヒ銳意掃海作業ヲ實施シ二個ヲ誘爆セシメ

三十一日一應掃海ヲ下セリ

磁氣音響音機雷防禦部署ヲ別冊ノ通制定シ着々對策ヲ修正
アリ

ホニ十日「エーギニア」民政部所屬第十一長福丸ハ當隊ニ何等ノ連絡
ナク航行禁止海面ニ侵入浮流機雷ニ觸レ沈没セリ

ヘ「 그리스マス」島燐磺開發ハ其ノ輸送船ヲ得ラレサルコト敵邀撃手
上
手足纏下ナル者ハ孤島ヨリ退去セシムルヲ可トスルコト及同島現有
資材勞力ヲ他ノ作戰準備ノ爲緊要トスルコト等ノ理由ニ依リ二
日引揚ニ決シ十三日JN發二十二日JN着機帆船二隻ヲ以テ調査隊
ヲ派遣スルト共ニ幹部ノ大部ト長期在島者ヲ交代セシメ防備資材及
來年五月迄ノ糧食ヲ補給セリ

ト、小「スング」列島ニ増援兵力ヲ陸上急送スル爲陸軍ト協同調査隊
ヲ編成調査ヲ了シ對策ヲ進メアリ

チ強靱ナル戦力維持上救難ノ緊要ナルヲ認メJN JBニアル優大ナル工作

カヲ全能發揮シ得ル如ク別冊ノ通り救難部署ヲ制定シ應急措置ニ遺憾ナカラシムルニ努メタリ

リ高速目標ニ對スル航空部隊ノ雷爆撃手訓練ノ指導官トナリ敷彼ニ對シ九三ニ空及二三航戰機ノ雷爆撃手訓練ヲ指導セリ

又陸戰訓練防空訓練ヲ勵行シ一方補充兵等ニ對スル基礎教育ヲ實質施中ナリ

又防疫ニ関シテハ内規ヲ定メ防蚊防蠅ノ躰訓練ヲ徹底セシメ防疫作業ヲ勵行セシメアリ

ウエルニ基地及東口砲臺ハ漸次其ノ緒ニシキタルモ「スワトウエ」島ハ依然尙ホ大ニ奴力カヲ要シ實質施方案ヲ定メ督勵スルト共ニ第一ノ三病院ノ協力を求め鏡意努カシアリ

ル砲臺及基地ノ新設ニ伴ヒ隊内編制不適當トナリタルヲ以テ隊ノ編成ヲ改メ二十日以後之ヲ試行シアリ

63.

予潜水艦ヲ以テスル謀者ノ潜入スルニ於ケル倉庫放火等ニ鑑ミ各州
廳ヲ含ム海陸軍防謀連絡ヲ密ニスルト共ニ別冊ノ通軍港地區等出入
取締規程現住民通信規程等ヲ其ノ取締ヲ嚴ニセリ

1810

麾下艦船行動

三	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日
一〇九〇 護衛		ヤ バ ラ ス	ス			任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	任 務	
一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛	一三〇〇 護衛		
		ス ラ バ ヤ																													
		ス ラ バ ヤ																													
		ス ラ バ ヤ																													
		ス ラ バ ヤ																													
		ス ラ バ ヤ																													
		ス ラ バ ヤ																													
		ス ラ バ ヤ																													
		ス ラ バ ヤ																													

三	三	三	六	三	二	二	二	二	二	二	二	九	八	七	六	五	四	三	三	二	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一	月	日							
面								方			夕													ス					小			ノ	ナ	ニ	ハ	ノ	ハ		
		面						方			夕							ヤ						シ			西												

66

第二十特別根據地隊戰時日誌

第二十特別根據地隊司令部

自昭和十八年十一月一日
至昭和十八年十一月三十日

十一月三十日

機密第二十一特根第六號ノ二三

9/13

1813

目次

一	經	過
二	人	員ノ現狀
三	令	達報告
四	參	考
五	作	戰經過概要
六	醫	務衛生
七	會	計經理
八	令	達報告別紙

(目次終)

67.

一
經

過

1815

一、敵情

イ、敵機飛來状況及小出撃予強化ニ鑑ミ西方正面反攻準備整ヒアルモノ如シ

ロ、東印正面ニ於テハ敵機ハ主トシテJN攻撃ヲ企圖セリ

ハ、敵潜発見二十隻ニシテ前月ニ比シ増加ニアリ謀者ノ言ニ依レバ之ガ連絡潜水艦ハ十二月ニ來寇スルモノ如シ

二、我が軍ノ状況

各部邀撃準備ヲ急ギツツアリ 當部隊ハ作戰命令ヲ發布シJG HQ 砲臺ヲ急設スルト共ニ「シ。一」ハ「五」電波探信儀ノ整備ヲ急ギタリ

あ、

U.S.S. 70

D. 1000

三 作戰指導

1. 敵機

(一) 十月十二日 JN 爆撃手ニ飛來セル所其ノ侵入路ハ HA ヨリ HXW ヲ經由スルヲ以テ約一時間半前ヨリ豫知シ得ルヲ利用シ邀撃スベク丙戰ノ配備ヲ具申セリ

(二) 十八日ハ我が擔任區域各航空基地ヲ偵察ニ飛來又二十七日 JN 港口ニ磁氣機雷ヲ敷設セリ

口 敵潜

(一) 七日竜運丸ハ當港東掃海水路入口附近ニテ潜望鏡ヲ發見シ航空機及哨戒艇ヲ以テ嚴重搜索シアリシ所八日三二九空機ガ「カンゲアン」島東方ニ浮上潜水艦ヲ發見九日九三二空機ヲ以テ「スンダ」海北部ニ於テ攻撃テ效果確

ハ
マ
セ
ル

實ナリ

(二) 十一日方位測定ニ據リ敵潛十三度南百十四度東ニア
ルヲ知り航空機及哨戒艇ヲ以テ索敵セルモ敵情ヲ
得ズ

(三) 十七日第八號掃海艇護衛中ノ千光丸ハ「スンダ」海
峽南口ニ於テ魚撃ヲウケタルモ被害ナク航空機ト協
力索敵セルモ遂ニ逸セリ

(四) 二十七日夜第十二號掃海艇ハ「フロレス」島北方ニ於テ
敵潛ヲ發見制壓二十九日朝「カンゲアン」島東方ニ
於テ被護衛船「すえぞ」丸撃沈セラレ航空機ヲ以テ
索敵中ナリ

八 第八號掃海艇及第一〇五掃海特務艇ハ一日附夫々第二
十三及第二十六特根ニ編入セラレタルモ當部隊任務ト

護衛兵力ニ鑑ミ指揮官間協議ニ依リ第八號掃海艇
ヲ引續キ當作戦指揮下ニ作戦セシメアリアル所三十
日東印部隊命令ヲ以テ當部隊ニ編入セラレタリ

二防 謀

(一) 敵來寇ヲ船員ニ信ゼシメ一〇一燃料廠、綿布ヲ「ソロンボ」島
ニテ賣拂ヒタル民船ヲ逮捕シ急速移動訓練ヲ兼ネ魚
雷艇ヲ同島ニ派遣掃蕩ノ結果犯人ヲ檢舉セリ

(二) 十日敵機來襲時發火信號中ノ民船ヲ逮捕セル所敵
潜水連絡アリ「バジョ」島ノ搜索ニ關シ六警戒ニ依頼セリ

ホ、十五日千光丸「ノリスウオッチマ」ニ坐礁セシヲ以テ第十一特工
ト協力十七日離礁セシメタリ

ハ 訓練

(一) 自十五日至十八日間機動上陸部隊ヲHAニ急派シ機動

訓練ヲ實施セリ

(二) 二日、十九日、二十日、九三ニ空ヲシテ高速目標ニ對シ雷撃手(實射)訓練ヲ實施セシメタリ

(三) 航空本部々員ノ航空術講習ヲ實施セリ

1820

四麾下艦船行動

三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	月日
																														駆替一
																														駆替二
																														駆替三
																														掃八
																														掃十一
																														掃十二
																														一。四駆特
																														二。三掃特
																														二。七駆特
																														一。七掃

7a.

三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	月日	
	面						方					夕					ン														一〇三持特
	面						方					夕					ン														一〇五持特
[Large empty area with a diagonal line from bottom-left to top-right]																															

73.

軍機

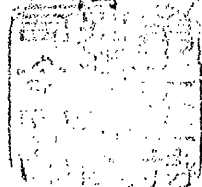
機密第二十一特根第六號ノ二三

自昭和十八年十二月一日
至昭和十八年十二月三十一日

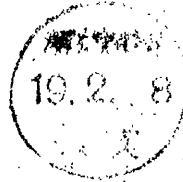
一月二七日提出

第二十一特別根據地隊戰時日誌

第二十一特別根據地隊司令部



1823



目次

一	經	過
二	人	員
三	令	達
四	參	考
五	作	戰
六	醫	務
七	會	計
八	令	達

報告別紙

(目次終)

74.

一
經

過

1825

一 敵情

イ 敵機ハ偵察ヲ強化シ輸送艦船攻撃ノ機ヲ狙ヒアルモノ如シ
ロ 敵潛ハ概ネ前月ノ如ク行動シアリト判断ス
ハ 通信情報ニ據ルバ中旬以降西方面反攻ノ徴候濃化スルト共ニ豫
北方面輸送船ノ行動増加シアリ

二 我が軍ノ状況

イ 海軍陸軍共兵力部署ヲ變更セラレ豫北正面邀撃ヲ配備ヲ強
化セラレツツアリ

ロ 當部隊兵力中

- (一) 四日第三十三防空隊ヲ甲區部隊ニ加フ
- (二) 一日附第一〇九第一一〇魚雷艇ハ當隊ヨリ除カレタルモ其ノ進出迄

協議ニ依リ作戰指揮ヲ繼續シ二十四日第一〇九魚雷艇ヲ進出セシム
ム十二日附第一〇一魚雷艇ハ濠北部隊指揮官ノ作戰指揮下ニ入
レシタルモ輸送船、都合ニ依リ引續キ當方面ニテ作戰セシメアサ
三十五日附九三ニ空艦攻ヲ水偵ニ變更セラレタルモ尚ホ實施ニ至ラズ
ハ五日附丁方面ヨリスル濠北作戰輸送ノ護衛擔任ヲ命ゼラレ九日SO SF
間海上交通保護ノ任ヲ解セタリ

三 作戰指導

1. 海上交通保護

(一) 僅少ナル艦艇ヲ以テ迅速ナル輸送ヲ確保スル為擧隊一致海上交通保
護ニ任ズル如ク徹底ヲ期シ八日開戰第三年劈頭詳細麾下一般ニ
訓示セリ

(二) 九日損傷船球磨川丸當隊擔任海面ニ於テ曳航困難トナリタルヲ

外

承知スルヤ直ニ港務部長ヲシテ松浦丸ヲ以テ救難セシメ又第三號驅
潜艇ヲ護衛ニ任ゼシム十二日第十一特工ノ協力ヲ得テ江ノ島
派十七日JNニ護衛曳行ヲ了シタリ

(三) 向ケ下輸送A船元明丸若津丸八第二號驅潜艇ヲシテ護衛セシ
メ七日JN發途次若津丸火災ヲ銳意消火シ進行中十五日敵機ニ
發見セラレ十五日夕及十六日朝爆撃ヲウケ遂ニ兩A船ハ沈没
セリ

(四) 下輸送ニ備ヘ敵産十三粒機銃ヲ陸軍ヨリ借受ケ各驅潜艇掃
海艇ニ増備セリ

ロ 對潜

(一) 一日九三ニ空機ヲ以テカンゲン東方海面ニ於テ敵潜一隻ヲ撃手沈セ
リ
(二) 五日敵潜ノ行動ニ鑑ミ月齡三八乃至五及一〇乃至二〇ノ期間航空部隊

一部ヲ三三〇又八三三八基地ニ派遣シ及G哨區ノ哨戒ヲ嚴ニスル様
發令セリ

(三) 十二日謀者ヲ利用シ謀者交替ノ爲來寇スル敵潛ヲ撃テ沈スベク奇
襲部隊ニ下令セシモ遂ニ逸セリ

(四) 二十六日右哨戒機ハ「ゴロナダウ」島北方ニ於テ敵潛ヲ發見ハ號掃海
艇ト協力攻撃セシモ效果不明ナリ

ハ對機

(一) 捕虜ノ言ニ依ルバ「JN」來襲ハ「ゴロナダウ」基地ヨリ發進スルヲ常ト
スルヲ以テ「ゴロナダウ」間ノ敵信警戒方通信隊ニ要
求セリ

(二) 二十三日「JN」艦口ニ高度七料ノ敵四發ラシキモノヲ認メ二十九日爆音
ヲ聽キタル事實ニ徴シ東部丁北方海面ニ敵機偵察行動シアリト
判斷ス

(三) 二十七日嚴島ハ護衛セル船團ハ南方ニ於テ敵機ニ發見セラレ
攻撃ヲウケタルヲ以テ敵機行動ノ狀況ヲ判斷シ船團ノ行動決
定ニ資ス

二、邀撃帯設定

- (一) 航空基地整備ノ方針急變モレ為現地作業一部齟齬ヲ來セリ
又重點主義ニヨリ第二「スンバワ」第三「コバ」ハ着工延期トナレリ
- (二) 「チラチヤップ」砲臺ハ下旬据付ヲ了セリ
- (三) 棒地雷及小型機雷取扱參考書ヲ編纂シ配備ヲ研究中ナリ
- (四) 敵機雷ヲ我防備ニ活用スル方策ニ關シ第一〇二工作部ト協力研
究中ナリ

ホ、防 諜

(一) 二十四日陸軍及軍政監部ト防諜連絡會ヲ開催シ主トシテ海上
防諜ニ關シ檢討シ其ノ強化ヲ期セリ

(一) 民政府及民政部ニ對シ帆船ヲ組織シ防諜ノ強化ヲ計ル如ク要
求セリ

ハ 訓練

(一) 二十日ヨリ二十七日迄陸軍ノH方面機動訓練ニ協力シ多大ノ成
果ヲ收メ得タリ

(二) 當方面初任下士官ヲ當隊ニ集メ聯合教育ヲ實施セリ

(三) 夜間及黎明薄暮訓練ヲ勵行セリ

ト 其ノ他

(一) 瓜港ニ磁氣機雷掃海ハ六日九日各一個ヲ處分シ十日之ヲ了セリ
五日音響機雷處分ノ目的ヲ以テ航空機ニテ發音彈ヲ投下セ
リ

(二) 十二日夕九ヲシリスミス島ニ派遣防備器材及人員ヲ輸送會社
關係人員資材ヲ引揚ゲ指揮官ヲ交代セシム全島ハ茲ニ防備ニ專

18.

念へスル強カナル及後足ヲナセリ

(三) 二十日ヨリスマスヨリ歸投ノ敵性人二十名ノ軟禁ニ任ズ

(四) 十日浮船渠ヲJGヨリJBニ回航ヲ了セリ

(五) 廢品ヲ回收活用シ戦力ヲ増強スル爲之ガ施行統制ニ任ズ

白粉等ヲ
12月14日

1332

四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	月日			
バ													驅替一				
ミルメラ	務	任	衛	護	一〇〇〇	スラバヤ	〇八三〇	任	務	護	衛	驅替二					
衛				護		スラバヤ	〇八三〇	任	務	護	衛	驅替三					
ヤ	バ	ラ	ス	一六三〇	務	任	衛	護	一三〇〇	シ	ダ	バ	掃八				
ス		ス	リ	ク	務	任	衛	護					掃十一				
ス					務	任	衛	護					掃十二				
バ	ラ	ス	一〇四五	區	哨	一〇三〇	ヤ	バ	ラ	ス			一四驅特				
護	一〇〇〇	スラバヤ	〇九一五	海	航	リシ	ダ	航	海	コ	ダ	バ	ル	ガ	ヤ	ジ	一三掃特
ヤ													一七驅特				
ヤ													一七掃特				

四 下艦船行動

1833

三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五
海	航	カ ツ フ	ワ イ ン				任 務	護 衛	一 四 〇 〇						ヤ	
任 務	護 衛	ヤ		バ			ラ	ス	一 九 〇 〇			務	任	衛	護	
航 海	一 四 〇 〇	ヤ バ ラ ス	一 〇 一 五	任 務	護 衛	一 三 〇 〇			務				任			
		務		任			衛			護			一 四 五 〇			
		ヤ		バ			ラ	ス	一 〇 三 〇			務	任	衛	護	
		ヤ								バ					ラ	
西 哨 區		ヤ バ ラ ス	一 六 〇 〇	哨 區	一 〇 三 〇		ヤ バ ラ ス	一 三 一 五		哨 區	一 四 五				ヤ	
		ヤ	バ	ラ	ス			一 六 四 五		務		任	衛			
			面							方				ワ		
			面							方				ワ		

1834

三
一

三
〇

二
九

二
八

二
七

二
六

二
五

二
四

二
三

二
二

二
一

一
〇

一
九

一
八

一
七

一
六

一
五

面

方

夕

1836

81

二人員、現狀

1837

陸軍省少佐 堀野 長

軍機

機密第二十一特根第六號、二四

自昭和十九年一月一日
至昭和十九年一月三十一日

第二十一特別根據地隊戰時日誌

第二十一特別根據地隊司令部

一月

19.3.11

1838

目次

- 一 經 過
- 二 人員現狀
- 三 令 達 報 告
- 四 參 考
- 五 作 戰 經 過 概 要
- 六 醫 務 衛 生
- 七 會 計 經 理
- 八 令 達 報 告 別 紙

83

一
經

過

1840

一 敵情

イ 敵機ハ濠北方面ニ出現激増シ哨戒偵察ヲ強化シ輸送船攻撃ヲ執

拗トナリツツアリ

ロ 敵潛ハマカツサル海峽及「ボルネオ」北方海面ニ出現顯著ナリ

ハ 敵艦船ハ濠北方面哨戒艦艇ノ出現多ク「ニューギニア」南西及濠

北方面ニ對スル敵輸送活潑化セルモノト認めラル

二 我軍ノ情况

イ 海軍陸軍共ニ兵力配備變更セラレ濠北正面邀撃戰備ヲ強

化シツツアリ

ロ 在JV第二歩兵團ハ東部防衛隊ノ任ヲ獨立混成第二十八旅團

ニ引繼ギ機動部隊トナリ又JV要地防空ニ任ズ

八當部隊兵力中

(一)「チラチャップ」ニ分遣隊設置五日砲臺(捕鹵十二種平射砲三)ノ
試射ヲ了ス

(二)五日當隊指揮下ニアリタル第十九設營隊解隊セラル

(三)八日一〇二掃特ヲ直率部隊ヨリ小スンダ部隊ニ編入ス

(四)一〇日シ〇一見張所電波探信儀(一號ニ型ニ基)裝備ヲ了ス

五、三日一〇三掃特ヲ小スンダ部隊ヨリ直率部隊ニ編入ス

六、三五日一〇五驅潛特竣工直率部隊ニ編入ス

(七)三〇日九三二空機種變更ニ依ル水偵八機JVニ進出ス

(八)三十一日一〇四哨戒艇整備直率部隊ニ編入ス

三作戰指道寸

イ海上交通保護

AC.

口對潛

- (一) 海上交通保護ノ萬全ヲ期ス爲船團護衛參考事項戰訓ニ依ル注意事項等ノ印刷配布潜水艦長ノ講話等ヲ行フ
 - (二) グーパン向ケ下輸送ノA船平明丸B船日營丸C三號驅潛艇ヲシテ護衛セシメグーパン突入揚塔中四日夕刻敵四發五機ノ攻撃ヲ受ケ平明丸ハ沈没セリ三號驅潛艇ハ至近彈ニヨリ探信儀室揚錨機室等ニ浸水セルモ日營丸ヲ護衛JVニ歸投セリ
 - (三) JV海峽ヒリン角附近ニ假泊中突風ニヨリ坐礁セルシヤロ運航等ニ櫻丸(一五噸赤造機帆船)二十四日離礁セシム異狀ナシ
- 口對潛
- (一) 七日早朝カンゲアン島北東海面ニテ呂號一二潛敵潛ト交戦ノ報ニヨリ九三三空艦攻ヲシテ直ニ攻撃セシメモ之ヲ逸ス
 - (二) 航空部隊ヲ三三八基地及ビマ基地ニ派遣對潛哨戒ヲ行ハシム
 - (三) 神威二八日二九日ニ亘リマカッサル海峽南部ニ於テ敵潛二隻攻撃ス

ハ對機

ヲ受ケ損傷直ニ掃八一驅潜水ヲ現場ニ急行セシムルト共ニ九三三部隊ヲシテ索敵攻撃テセシム事後乃命令ヨリAB指揮官指揮スルヲトナリハ掃ヲシテ其ノ區處下ニ入ラシム

(一) 十日ヲリスマス島ニ敵四發一機來襲セルヲ以テ九三三部隊ヲシテ攻撃ヲ準備セシムルト共ニ戊區ニ警告戒嚴ヲ發令スルト共ニ警告戒

ヲ嚴ニセリ
ヲ嚴ニセリ

(二) 十二日夜BBLM共ニ空襲セラレタリ月齡ノ關係ヨリ當方面ニモ來襲ヲ豫想セラレ警告戒ヲ嚴ニセリ

(三) カマル飛行場滑走路整備艦戰艦攻ノ着陸試験ヲ了セルヲ以テ丙戰ノ進出ヲ協議セルモ安貝現セス

(四) 低空奇襲及磁氣探機雷敷設阻止法トシテ阻塞氣球ノ裝備ヲ
スルヲ通ジ中央ニ要求セリ

ニ邀撃手帯設定

- (一) 小スンダ要地防衛陣地ヲ急速構築シツツアリ
- (二) アラチヤップ砲臺公試終了分遣隊ノ設置ヲ了ス
- (三) 魚雷艇基地整備要領定メラレ基地調査整備中
- (四) 連綴補給基地ノ整備計畫ヲ定メ基地ノ急速整備ニ着手セシム
- (五) 二十五日コホック島カブラットバタミロンニ敵産十五種砲夫々三及二門SL各一運搬ヲ了シ急速砲臺構築中
- (六) 水上航空基地調査ヲ了シ遂次整備中

水防諜

- (一) 防諜上海軍武官搭乗自動車ノ識別旗ヲ廢止セリ
 - (二) 四日間ニ亘リ現住民使用者身分證明書一齊検査ヲ施行セリ
- 教育訓練
- (一) 管下全般陸軍擔任見張員ニ對シ水上見張ヲ主トスル見張講習

26.

指導ヲ開始セルニ熱心ニ參加シ多大ノ成果ヲ收メテリ又陸軍協同部隊ニ對シ小型機雷ノ講習ヲナセリ

(二) 第一警備部隊教育方針ヲ定メ教育訓練ノ精到ヲ期セリ

(三) 十三日ヨリ二日間未熟練運轉員ヲシテ貨物自動車ノ移動應急訓練ヲナシ多大ノ成果ヲ得タリ

(四) 補充兵ヲ選抜シ電探員及水測員講習ヲ安身施セリ

(五) 二十八日ヨリ三日間陸戰教練第八回ヲ安身施陸戰ノ演練ニ努ム

ト其ノ他

(一) 廢品回收部署ヲ定メ回收ニ着手セリ

(二) 陸軍憲兵隊ト協力軍紀風紀ノ一赤日取締ヲ行ヘリ

47

日	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一
驅潛一	ス	ラ	バ	ヤ																											
驅潛二	ス	ラ	バ	ヤ																											
驅潛三	ス	ラ	バ	ヤ																											
掃八	ス	ラ	バ	ヤ																											
掃十一	ス	ラ	バ	ヤ																											
掃十二	ス	ラ	バ	ヤ																											
區驅特	ス	ラ	バ	ヤ																											
區驅特	ス	ラ	バ	ヤ																											
區掃特	ス	ラ	バ	ヤ																											
區掃特	ス	ラ	バ	ヤ																											

艦下
艦船
行動

三二	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日	
			面					方		ワ				ヤ																		日 一七 羅 持
			面					方		ワ				ヤ																		日 一〇 羅 持
(A large diagonal line is drawn across the main body of the table, from the bottom-left corner to the top-right corner.)																																